

マダガスカル訪問で、「百聞プラス一見」の力をつける

2007年10月17日

9月7-21日、「開発とは何か」について勉強会をやったり授業をとったりしていた学生等のグループ「国際開発研究会」のうちの5人が、(財)三菱銀行国際財団の助成を頂いて、マダガスカルを訪問し、私も会の顧問として同行しました。

訪問の意図したところは、勉強会や授業で学んだことに加えて現地を見ることによって、開発途上国の開発問題について具体的かつより現実的に考える力をつけよう(「百聞プラス一見」の力)ということです。また、国際協力政策学の枠組みの中のことなので、政府機関、NGO、援助機関、そして具体的なプロジェクト等まで、幅広く訪問しました。現地の学生たちとの意見交換会も大変有意義でした。

そのうちJICAに協力をお願いしたのは、マダガスカルの開発課題や日本からのODAについての説明と、村の小学校に派遣されている青年海外協力隊員の訪問でした。加えて、我々がマダガスカルを離れる前日の日曜のビュッフェ昼食を一緒にとれる方があればとお話したところ、5人もの隊員が来て下さいました。



最後の昼食に5人の協力隊員が来て下さった

マダガスカルは、2002年の大統領選でほぼ同数の票を得た2人の当選を巡って政治的混乱が生じましたが、昨年暮れに現職が圧倒的多数を得たことで、政治的安定度が増しました。そういう背景の下に作成された今後5年間の国家開発計画は、その目標の第一を、個人が自分たちの生活を良くする力を表現している「人間開発指数(Human Development Index)」の向上に置いていること、平均余命、識字率、中学卒業率を大幅に引き上げること等を目標の上位に置いていること、他方、多くの国の開発計画で第一の目標に掲げられることの多い国内総生産と1人当たりの国民所得の向上が第9~10位と、下位の目標になっていることが特徴的です。つまり、お金で示されるようなことの向上にも努力するけれども、健康や教育のような、国民一人一人が自分たちの生活を良くする力をつけることのほうを重視した目標設定になっています。

JICAの技術協力を中心とする日本のマダガスカルに対するODAは、これまでも、保健と教育に重点を置いてきましたが、マダガスカルのそういう目標設定や政治的安定を受けて、日本は同国に対するODAを更に拡充させて行こうとしていることがよくわかりました。

他方、青年海外協力隊員については、計7人もの隊員のお話を聞くことができました。その結果、隊員の活動、特にその初期には、それぞれの専門の仕事をするための基礎を作ることに相当な時間と労力を割かなければならないことが、開発途上国では必要であることがよく理解できたと思います。



村の小学校に派遣されている協力隊員から教室で話を伺う

例えば、私たちが訪問した村の小学校の隊員の場合、初代の隊員は「体育活動」のために派遣されたのですが、小学校には、校舎はあっても運営費がなく、サッカーボール一つを買うことも困難でした。そこで、彼は、JICA専門家に相談した結果、首都の外国人が高く買うアスパラガスを村の有志に栽培してもらい、それを売って学校の運営費を作ることに力を注ぎました。今回お会いした2代目の隊員は、それを更に発展させ、作ってもらう野菜の種類を増やすとともに、販路も拡大させていました。それでもなお、村の人たちには、野菜を首都まで売りに行く交通費が出せないで、彼女が、野菜を頭の上と両手に持って長い悪路を歩いて国道まで行き、そこからバスに乗って首都に売りに行っているのです。初代隊員が着任



して以来、かなりの進展ですが、それでもなお、村の人たち自身が野菜を売れるようにするという、難しい課題が残っているのです。

村の有志がアスパラガスで始めた野菜作りが、ラディッシュを含め、何種類かに拡大していた

別の村で保健・衛生活動をやっている隊員の場合は、かつてODAで供与された井戸のポンプが壊れてしまい、安全な水の確保という重要な基礎が脅かされました。しかし、ポンプの部品は近くの町でも手に入らず、彼女は、そのためにあちこちに掛け合うなど、ポンプの修理に多大の時間と労力をかけることになっています。



協力隊員も、村の人と同じに、水場まで少し濁った水を汲みに行く

マダガスカルの人1人当たりGNI(国民総所得)は290ドルと、「世界開発報告書2007」掲載135か国中下から10番目です。しかし、訪問した隊員の村では、皆さん、段々畑の各段に溝や池を掘って水分条件の改善に努力し、色々な作物栽培を試みていました。別の村でも、湿地だった谷間を水田にする開墾、近くの街で売れる野菜や果物の栽培、堆肥作り、養魚、国際機関のプロジェクトへの参加等、色々な努力をされていました。そして、どの方も、表情は明るく、充実感がありました。「1日1ドル以下の生活」といった金銭面の数値と現地の人々の生活の実態とのギャップが大きい。しかし、そういった金銭的な数字に現れないような問題がたくさんあることも事実であった。」という感想を学生が述べていました。マダガスカルの人たちは、自分たちの生活を良くする努力をしているし、また、政治的安定とともに政府も人々が自分たちの生活を良くする力をつけることに重点を置こうとしています。しかし、現実には、保健・医療・衛生面、教育予算・人材、インフラ等、多数の課題があります。JICAや青年海外協力隊の皆さんの努力が更に良い結果をもたらすよう、訪問させて頂いた者一同、願っています。

報告者 宮田春夫(新潟大学国際センター)

関連リンク

- [訪問写真](#)

Copyright © 2006 Japan International Cooperation Agency. All Rights Reserved.

JICA地球ひろば

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

電話番号: 03-3400-7717(代表) ファックス: 03-3400-7394

